**2014年塗布技術研究会　塗布技術討論会議事録**

2015.3.31

**【日時】**2014年11月29日　10：00-11：30

**【場所】**山形県職員会館　『あこや会館』　会議室202室

**【議題】**（3）精密塗布／パターンコーティング

司会/議事録：多田

参加者：山村先生、菰田先生、笹野様、村井様、岡野様、上山様、大島様、安田様、

那須様、清光様、澤井様、山様、竹田様、中野様、久保先生、坂井様、小林様

≪話題提供≫

・菰田先生～マイクロレオロジー(添付資料参照)

・山村先生～討論内容提案(添付資料参照)

 Q1. 議論希望のプロセスは薄膜レベル〇―精度クラス〇？

Q2. 評価しても品質保証できない失敗談は？

Q3. 今後必要な評価技術やその開発指針は？

Q4. レベル0.1薄膜のパターン塗布はどこまで可能？

≪自己紹介&議論したいテーマ≫

・品証技術について、特に工程途中の品質管理技術、オンライン検査技術、川上の原材料（基材、塗料、工程材等）の受入れ試験も含めて議論したい。

・精密塗布に伴う(を保証する)測定技術

・同様に可視化技術 をいかに効率よく選定/開発すべきか

・親疎水パターンニング、パターン塗布に関する情報を収集したい

・塗装欠陥と塗料物性の関係

・高速塗装(High sheer時)における塗料物性の評価方法

・構造形成、クラックなどの欠陥の発生

≪議論内容≫

・精密塗布の評価法、議論する薄膜レベル、塗膜に許容される精度、塗布欠陥と物性の関係、高速塗布での評価法・欠陥の形成などについて議論

・高速コーティングではせん断速度がレオメーターの領域を超えておりせん断ひずみの問題として扱う必要があるのではないか。

・レーザー変位計で乾燥膜厚の変化を測定して観察する手法を取り入れている。ただし精度的なものは、現状求めない。可視化が望まれる中での一つの手法。

・一般的に求められる厚み精度は絶対値で5％、3σ程度ではある。

以上